

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0591100078	
法人名	社会福祉法人 北秋田市社会福祉協議会	
事業所名	グループホームあいかわ	
所在地	秋田県北秋田市新田目字大野5番地1	
自己評価作成日	平成27年 1月 26日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団	
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1	
訪問調査日	平成27年 2月 20日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模多機能型居宅介護事業所と併設しており、行事やレクリエーション等を通じ利用者同士の交流が図れています。また、家族やボランティア、地域の方々との交流機会を持ち、利用者みなさんに喜んで頂けるよう取り組んでいます。日中は両事業所の職員が見守りでき、夜間は併設の夜勤者、宿直の3名で見守りを行っています。看護師を2名配置し交代で入居者の健康管理や受診介助を行っている他、医療機関との連携にも努めています。向かいには消防署があり、避難訓練や救命講習会等で日頃からご指導、ご協力を頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の評価結果を受けて、利用者の要望に応えられる入浴支援体制作りのため、職員を増員しサービスの充実に取り組んでいる。地域とのつながりが密接にあり、近くの小学校にて実施する総合的な学習に、車イスの操作体験や高齢者疑似体験の出張授業を実施したり、事業所にて児童を受け入れたりしている。さらにそのお礼として学校で行う学習発表会に招待され、利用者2名が観賞してきたとのこと。利用者同士の流動的な関係性にも気配りし、職員が会話を盛り上げたり、隣に座って作業する利用者に配慮するなど、居心地の良い空間を作り出すことに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員の目が届くよう玄関正面に掲示し自分の行っている介護を振り返る機会を作った。理念以外にも毎月目標を決め日々取り組んでいる。	「整理整頓」や「日光浴をしよう」など毎月わかりやすい目標を定め、職員間で共有しながら理念の実現に努めている。	理念の実践とさらなる共有を目指し、職員会議などの際に、理念を振り返ったり再検討する機会を設けることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加するよう努め、事業所の行事に地域の方を招待している。月2回調理ボランティアとして地域の方々の協力を頂いている。	近くの小学校にて実施する総合的な学習に、車イス操作や高齢者疑似体験の授業を提供したり、事業所にて児童を受け入れたっている。さらにそのお礼として学習発表会に招待され、利用者2名が観賞してきたとのこと。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	前年度は集落サロンに出向き認知症についての勉強会を行ったが今年度は行ってない。職員は年1回全戸訪問を行い事業所のPRIに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し利用者の状況や行事の様子等を伝え意見を頂いている。外部評価についても報告し意見を頂いている。	運営推進会議に参加している利用者家族から、自宅で使用していたウォシュレット付きのトイレを設置して欲しいと要望され、検討の結果導入することとしたことがある。	定期的開催されている会議ですが、これまでに以上に様々な意見を取り入れるため、新たなメンバーを模索するなどの検討を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、助言、指導を頂いている。生活保護受給者も入居しており日頃から協力して頂けるよう取り組んでいる。	合川支所の所長が定期的に運営推進会議に参加しており、その都度、行事や利用状況などを報告し助言等を受けている。また、生活保護受給者に係る相談などを行い連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内のマニュアルに沿った勉強会を行い、職員同士声を掛けながら身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関等の施錠も行っていない。	マニュアルを活用した内部研修が定期的実施されている。外部での研修は、職員会議などで職員に伝達されたり資料の回覧をするなどして、情報の共有に取り組んでいる。各職員に応じた研修に参加する機会が確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内のマニュアルの他、高齢者虐待防止セミナー等の外部研修に参加している。職員で学ぶ機会を持ち実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し来月勉強会の予定になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて説明し、納得のうえ同意いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員らに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決第三者委員による相談日を実施し意見を聞く機会を設けた。ご意見箱を設置し、頂いた意見を掲示するようにしている。	利用者の事業所での様子を伝えるため「だんらん通信」を月1回送付したり、面会のため来所する家族とよく会話することで、要望をくみ取るよう努めている。第三者委員による相談受付を年2回実施し、家族にもお知らせしているが、現在のところ相談者はいない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年個人面談を行い、出た意見をまとめ改善に努めている。毎月の運営会議でも意見や提案の機会がある。	個人面談は、毎年管理者と実施しているが、職員の希望があれば、局長、所長とも面談ができるよう配慮されている。職員からの意見をまとめ、北秋田市社会福祉協議会として、雇用形態の改善を図るなどの取り組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や毎月行っているミーティングで出た意見、要望を把握し改善に努めている。法人内では年1回職員登用試験を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立て毎月内部研修を行っている。外部研修にも参加の機会を持ち、復命書にて回覧している。介護福祉士資格取得の為、職場でもサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所と連絡調整会議を行い、意見交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接を行い、本人の状態、意向を確認し不安等を受け止めていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族とも面接を行い、本人の状態、家族の要望を聴き、不安等を受け止めていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のニーズ沿えるようコミュニケーションを図り、簡単な作業や食事の片付け等、出来る事を手伝って頂きながら過ごしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子を伝え、気軽に何でも話して頂けるよう努めている。日頃の様子を毎月お便りで送付し、年に2回交流会を開催し家族に参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	床屋、美容院、病院等、本人の行きつけの場所への支援を行い、馴染みの関係が途切れないように努めている。	家族や地域住民を招待したふれあい交流会を年2回開催し、一緒に食事をしたり演芸を觀賞したりと交流がある。また、併設する小規模多機能型居宅介護事業所の利用者とお茶を飲むなどの関係がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、お互い関心を持ち声を掛け合えるよう見守り、介入している。孤立したりトラブルにならないよう座席にも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても気軽に相談できる関係を心掛けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望に出来る限り応えられるよう、普段から表情を観察したり、ゆっくり話しをするよう努めている。	利用者との会話や見守りから気付く仕草などから気持ちの把握ができるよう気を付けている。事業所を利用する前から、裁縫が得意だった利用者には、無理のない範囲で衣類の修理をお願いするなど、習慣を継続できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族に生活歴を記入して頂いている。情報収集に努め、なるべく自宅と同じように過ごしていただけるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報を共有し、その人に合った無理のない過ごし方が出来るような支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議で本人、家族の意向を確認している。利用者に担当を設け、毎月の会議で状況を確認し、意見を聞きながら作成している。	日常の支援の気付きを申し送りノートに蓄積しており、それを職員が毎日確認している。この蓄積がアセスメントにつながっており、職員全員が介護計画を作り上げているという意識の醸成につながっている。サービス担当者会議には、利用者と家族に出席してもらい実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に記入し、朝夕の申し送りで情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回調理ボランティアの協力を頂いている。地域の保育園、小学校、教会、民生委員等との交流もやっている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前から通院している医療機関を受診している。本人に代わり、現状を細かく伝え適切な医療が受けられるよう努めている。	利用者がこれまでかかりつけとしていた病院や薬局に引き続き通院し利用している。受診結果に特別な変更があった場合は、ご家族への報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間連絡が取れる体制の為、利用者の体調について気付いた事は、看護師に相談し指示を仰いでいる。必要に応じては受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況を病棟看護師に確認したり、退院時は必要に応じてカンファレンスに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合に係る指針を説明し同意を得ている。	これまで、看取りの対応が必要な利用者はいなかった。今後事業所として何ができるのかを、全職員で利用者の要望とすり合わせながら、話し合い検討する予定であるとのこと。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命講習を受講し、館内にAEDを設置している。看護師とは24時間連絡を取れる体制となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民の方にも避難訓練に参加して頂き、意見交換を行っている。スプリンクラーを設置し、発電機を準備している。	併設された小規模多機能型居宅介護事業所の職員と協力体制を築いている。近隣住民には、協力委員として避難した利用者の見守りを依頼し、避難訓練にも協力を得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を尊重した言葉掛けに勤めている。時々、感情的になり言葉が乱れる事がある為、毎月の会議等で話題にし注意を促している。	利用者に対する言葉掛けについて、管理者は支援中もしくは会議などの機会に、注意を促している。さらに、職員同士でも気になる点について、指摘し合える職場環境となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話に耳を傾け、相槌やうなづき等、話しやすい状況をつくり、できる範囲で希望に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、好きな場所で自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	できる方には着る服を選んで頂いたり、お化粧品をして頂いている。行きつけの理美容院を利用できるようにも支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ、季節を感じて頂けるよう献立を工夫している。後片付け等の簡単な家事と一緒にやっている。	利用者が食べ物を連想しやすいように料理本を見せようなどして、利用者の意向の把握に取り組んでいる。献立には近所からの差し入れを取り入れたり、おやつを買うため近くの店に利用者と共に行くなど、要望に応えるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った量を提供し、食事量、水分量を毎日記録している。月末に体重測定を行い増減に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来ない方は職員が行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録し、一人ひとりの排泄パターンに合わせた声掛け、誘導をしている。	排泄状況の記録を参考に、タイミングをみて誘導したり、そわそわするなど利用者の状態変化を見逃さないよう努めている。利用者の重度化が進んでおり、布パンツを履いて排泄を失敗した場合、本人にとって辛い体験になることが多いためハビリパンツを着用してもらうことが多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、毎朝、牛乳を提供し日中も水分補給に努めている。主治医からの服薬で調整している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の健康状態や意思に合わせて入浴している。	前回の外部評価の結果を受けて、どの利用者も週3回以上入浴ができるよう職員を増員し体制を整えている。また、入浴を拒否する利用者には、時間をおいたり、声掛けをする職員を変えたり、足湯や清拭で対応するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じ休息、睡眠できるよう支援している。不穏時等は、ゆっくり話を傾聴し安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容、副作用が分かるようにファイルし、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫や軽作業等、役割を持って頂くよう支援している。嗜好品は本人の希望に沿って提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	天気の良い日は散歩をしたり、テラスに出て日光浴している。年間の行事計画を立てて外出や外食の機会を設けている。	買い物へ行きたい利用者への支援など一人ひとりの対応が必要な場合は、隣接の小規模多機能型居宅介護事業所と職員を融通し合い、支援に取り組んでいる。冬期間においても、晴れている時にはテラスへ出たり、駐車場など戸外へ出る機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の依頼により施設側で管理、毎月収支報告しており、本人や家族の希望で少額を自己管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも気軽に電話等が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除や消毒を行い気持ちよく過ごして頂けるよう心掛けている。観葉植物を置き、季節に合わせた手作りのカレンダーを貼っている。	毎日欠かさない清掃などにより、清潔が保たれた共用空間となっている。日毎に違う利用者の様子を見守りながら、隣同士に並び会話したり、一緒に作業する利用者をさり気なく変えるなどして、居心地の良い空間を提供するよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ソファーや畳のスペースがあり自分の好きな場所で自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた慣れた物を持ってきて頂いている。家族や思い出の写真を居室に貼っている方もいる。	居室には事業所が提供している介護用ベッドがあり、身体状況に応じた生活ができるように配慮されている。また、使い慣れた物が持ち込まれたり、写真などが飾られていることが確認できた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境をあまり変えないよう心掛け、必要な方は居室の入り口に名前を貼り混乱を防いでいる。トイレの戸の色や窓を統一し分かりやすくしている。		